

俳句

江良碧松

田布施町
(1888～1977)



【著作】

句集『松吹く風』（昭和49・田布施町）

【関連情報】

田布施町郷土館 ☎082015212820
自由律俳句・周防一夜会
HP <http://www.2ocune.jp/~ichiya>

自由律俳人として活躍し、種田山頭火、久保白船とともに、『層雲』の周防三羽ガラスとして並び称された江良碧松は、明治二十一年（一八八八）四月十一日、熊毛郡麻郷村（現・田布施町）に生まれている。高等小学校卒業後も、故郷にとどまって農業に従事し、そのかわり自由律俳人として活躍した碧松の「一所定住」の生き方は、旅から旅へと放浪の生活を送った山頭火とはまったく対照的と言えるものであった。山頭火の句が特異な生き方の中から生まれたものであるのに対して、碧松の句は平凡な日常の中から紡ぎ出されたものであり、朴訥さの中に高僧の悟りにも似た奥深い哲学を持つその句は、読む人に深い感銘を与えずにはおかない。

明治四十四年（一九一）に、自由律俳句の「一夜会」を地元で創立した碧松は、山頭火より早く、明治四十五年（一九一）の一月に『層雲』にデビューしているが、デビュー後の活躍は目覚ましく、大正四年（一九一五）には、山頭火、白船とともに選者を委嘱され、この時期『層雲』の周防三羽ガラスとして並び称された。

しかし、幼い長男の事故死などをきっかけに、大正末期頃からいったん筆を折り、山頭火が活躍した昭和初期頃には句作から離れている。

彼が活動を再開したのは、終戦後の昭和二十二年（一九四七）であるが、その後の活躍は目覚ましく、層雲で句作を続けるとともに、「一夜会」から名前を改めた「碧（みどり）会」で後進の育成に努め、昭和四十七年（一九七二）には山口県文化功労賞を受賞、この受賞を記念して、生家の近くに「月はまろし水の中にもまろし」の句碑が建立された。著作としては、句集『松吹く風』がある。

昭和五十二年（一九七七）、九十歳の天寿を全うして生涯を閉じたが、没後も彼が手塩にかけた「一夜会」「碧会」を受け継ぐ「周防一夜会」が、現在も地元で活動を続けている。

（文・久光良一）



碧松句碑（田布施町）



日記（明治44年）

江良碧松 年譜

（提供・久光良一）

耕して土の真実稲が穂になる

飲んだ水みんな汗にしてはたらく

朝日、うちさばきうちさばき稲刈る

空も山もこんじきに映えてこの道一筋

戻って黙ってうちの水の甘さよ

月の明るさ何んにも持たない手をもつ

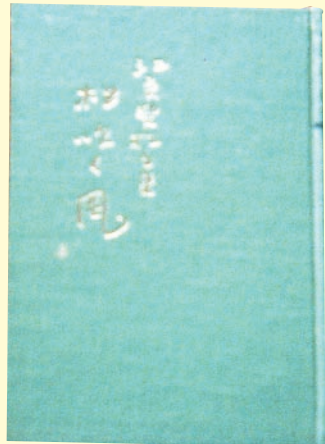
山から戻って山の匂う着物を脱ぐ

生れた家に一生くらしつつくほうし

人生、一ばん橋鍬かついで通る

春風の空手でまいる

（句集『松吹く風』抜粋）



明治21（一八八八）年	明治44（一九一）年	明治45（一九一）年	大正2（一九一三）年	大正3（一九一四）年	大正4（一九一五）年	大正14（一九二五）年	昭和15（一九四〇）年	昭和16（一九四一）年	昭和22（一九四七）年	昭和24（一九四九）年	昭和40（一九六五）年	昭和41（一九六六）年	昭和47（一九七二）年	昭和48（一九七三）年	昭和49（一九七四）年	昭和52（一九七七）年	《没後》	平成5（一九九三）年	平成9（一九九七）年	平成13（二〇一）年
二一歳	二四歳	二五歳	二六歳	二七歳	二七歳	三七歳	五二歳	五三歳	五九歳	六一歳	七七歳	七八歳	八四歳	八五歳	八六歳	八八歳				

4月11日、熊毛郡麻郷村に生まれる。本名松蔵。8月5日、友人三人とともに自由律俳句の会「一夜会」を結成し、第一回句会を開く。

1月、萩原井泉水主宰の俳誌『層雲』に初登場。「池に近く句碑もあり鍬初めの畑」

7月、種田山頭火と浴永不泣子が碧松居を訪れ、一夜会に出席。この後二人は、佐合島の久保破苦船居をも訪ねている。

10月26日、田布施駅前平木屋旅館に井泉水を迎えて層雲山口周東大会を開き、翌日、山頭火・破苦船とともに独歩遺跡などを案内する。

10月、『層雲』の選者を委嘱される。この時期、山頭火、白船（破苦船改め）とともに「層雲の周防三羽ガラス」と呼ばれる。

碧松、いったん句作の筆を折り、一夜会も活動を休止する。

10月11日、種田山頭火没する、59歳。

5月20日、久保白船没する、58歳。

5月5日、田布施町別府明楽寺に於いて、碧松以下七名が一夜会復興の準備を兼ねた句会を開く。

7月、碧松、『層雲』に再登場。

8月7日、久しく休会していた一夜会が「碧（みどり）会」と名前を改め、麻郷の高松庵で最初の例会を開いて、活動を再開する。

10月5日、柳井誓光寺に井泉水を迎えて層雲周東大会が開かれ、碧松らも参加する。

2月、『層雲』より寿老賞を受賞する。

5月、川添空念坊、浮島神社に碧松吟の力石の句碑を建てる。

「松の花降りかかるこの石かつぎあぐ」

10月8日、井泉水、秋吉台に清遊、碧松も同行する。

11月2日、山口県文化功労賞を受賞する。

11月3日、井泉水揮毫の碧松句碑除幕式。

「月はまろし水の中にもまろし」

4月、碧会を周防一夜会と改称し、玉木俊雄（斗汐）が代表者となる。

8月15日、碧松句集『松吹く風』刊行される。

9月12日、NHKテレビで「土と俳句・江良碧松の世界」が放映される。

2月23日、90歳（数え）の天寿を全うして死没。小豆島本覚寺層雲物語故俳人過去帳の井泉水の次位に記載される。

7月1日、4日、田布施町郷土館に於いて「江良碧松とその周辺展」が開催される。周防一夜会・郷土館共催。

5月15日、久光良一著、郷土館叢書『自由律俳人・江良碧松』が刊行される。

10月28日、田布施町の役場前に建立された句碑の除幕式が行われる。

「飲んだ水みんな汗にしてはたらく」